

## 「自然災害を取り巻く環境はどう変化してきたか」開催趣旨

日本学術会議 防災減災学術連携委員長

一社) 防災学術連携体 代表幹事

米田雅子\*

自然災害を取り巻く環境が変化しています。時代とともに、災害の要因となるハザードだけでなく、災害を受ける社会や環境も急激に変わっています。地球温暖化に伴う気象災害、地形の改変に伴う土砂災害、計画性のない都市のスプロール化、生物多様性の喪失、森林の荒廃など、多くの変化が顕れています。

「人新世」という概念が、地質関連学会などで検討されています。人類は豊かな生活を実現してきました。人類の活動は飛躍的に拡大し、一人当たりの環境負荷は増大し、爆発的に増加した人口との相乗効果により、地球の環境は改変されています。人類は、地球に負の影響を与え、自ら、この変化に翻弄されています。「人新世」については、1950年以降とする説、産業革命以降とする説など、まだ定義は決まっていますが、この概念の認識は広がっており、既に幾つもの学術分野で使われ始めています。

COP26など地球温暖化に関する国際的な枠組みが本格的に議論されている現在、このような大きな時代認識を踏まえて、自然災害を取り巻く環境の変化、その対応、今後のあり方を議論することは有意義なことと考えます。

今回のシンポジウムでは、お二人の先生から「人新世と自然災害」について、地質学の立場と地球環境の立場から基調講演を頂きます。その後、防災学術連携体（62学協会）の28学会から、本テーマに関する発表をして頂きます。防災に関連する学術分野は幅広く多種多様ですが、今回のシンポジウムでは、異なる分野の関連する学協会から、上記の観点での多様な情報を発信していただき、これらを皆で共有し、さらに議論を深め、今後の防災に向けた活動に展開する契機といたたく存じます。

### 地質学から提唱された「人新世」という概念

人類は豊かな生活を実現してきた。人類の活動は飛躍的に拡大し、1人当たりの環境負荷は増大し、爆発的に増加した人口との相乗的な効果により、地球の環境は改変されている。人類は、地球に負の影響を与え、自ら、その変化に翻弄されている。



地球誕生		
46億年前	▷	先カンブリア時代
5億4200万年前▷		古生代
2億5000万年前▷		中生代
		三畳紀
		ジュラ紀
		白亜紀
6600万年前	▷	新生代
258万年前	▷	第三紀
1万1700年前	▷	第四紀
現在	▷	更新世
		完新世
		人新世

\* 日本学術会議会員第三部副部長、東京工業大学特任教授